

IV-10 潜在的交通事故に関する基礎的調査 —— 一般ドライバーとタクシードライバーとの比較研究 ——

岩手大学 正 員 岩佐 正章
岩手大学 正 員 安藤 昭
岩手大学 学生員 ○柏崎 雄一

1. はじめに

近年、わが国の自動車交通依存度の高い地方都市圏における交通事故の増加傾向は顕著であり、地方都市における安全対策の確立が急務となっている。

こうした状況のなかで、顕在化した事故については、その発生状況が記録され、原因の究明や交通環境の改善に役立てられてきているが、潜在的交通事故（ニアミス）についての研究の事例は少なかった。

そこで本研究ではドライバーを、“運転に熟練している”と考えられるタクシードライバーと、前者に比して“運転が未熟である”と考えられる一般ドライバーに対し、自動車交通事故において最も主要な要因となるドライバーの意識や、認知形態を中心にアンケート調査を行なった。今回は、その調査結果の概要を報告する。

2. 調査の概要

調査対象都市として、積雪寒冷地であり、また比較的自動車交通への依存度が高い盛岡市を選定し、市内のタクシードライバーと一般ドライバーに対し、留置調査法によってアンケート調査を行なった。

調査の内容は、まず被験者が今までに経験したニアミスを、春期～秋期に経験したものと冬期に経験したもののについて、その時の状況をそれぞれ記述してもらい、ドライバーに「生理的喚起の程度（どれくらいドキッとしたか）」、「その回避行動が適切であったか」、「ニアミス体験がどの程度その後の運転に影響を与えているか」、といった項目を5～6段階に評価してもらった。

アンケートの配布数は、それぞれタクシードライバーは708部で、春期～秋期の事例の有効票105部、有効回収率14.8%、冬期の事例の有効票99部、有効回収率14.0%であり、一般ドライバーは665部、春期～秋期の事例の有効票233部、有効回収率35.0%、冬期の事例の有効票203部有効回収率30.5%であり、調査期間は平成4年12月17日～平成5年1月27日である。

3. 調査結果

調査項目それぞれについて、タクシードライバーと一般ドライバーの比較結果を春期～秋期については、図-1～5に、冬期については、図-6～10に示す。図中の“*”は有意差有りを示す。

4. 考察

今回の調査は、タクシードライバーと、一般ドライバーの状況に応じた運転の適切さを比較し、前者と後者の間に運転の適切さに違いがあるのかどうかを検証するために行なった。その結果、タクシードライバーは一般ドライバーと比較し、以下の点で有意な差がみられた。

- ・危険に対して事前に予測したという事例が多い
- ・ニアミス時の生理的喚起が弱い
- ・回避行動が適切だったという事例が多い
- ・“恐い”という感情をもったという事例が少なく“心配した”という感情をもったという事例が多い。

総合的にみるとタクシードライバーには、交通状況に応じて危険を予測し、それに対応して適切な運転を行なっている“場独立的”¹⁾なドライバーが多く、一般ドライバーには、運転の適切さが前者に比べて劣る“場依存的”¹⁾なドライバーが多いようである。

また、タクシードライバーのニアミスの記入欄には、「前を走っている車のドライバーが女性である」、「自転車のわずかなふらつきがあった」、「前を走っている車が交差点にくるたびに、ブレーキを踏み、どこか場所を探しているようだ」、などといった記述が一般ドライバーと比較して有意に多く、交通の場の中に隠喩のようにカムフラージュされている危険な因子を能動的な運転によって見つけようとしている様子が見えてくる。

春期～秋期

予測対応の有無

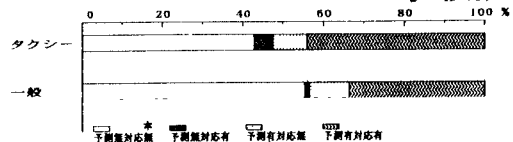


図-1

冬期

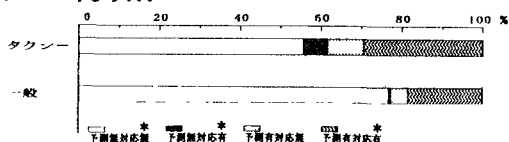


図-6

生理的喚起の程度

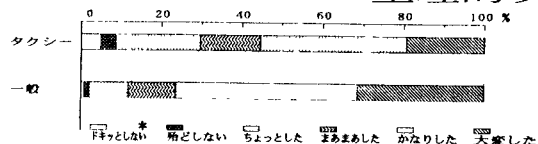


図-2

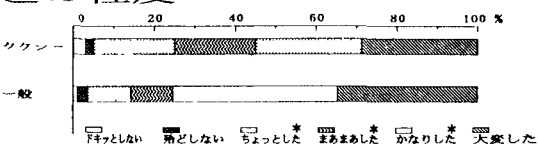


図-7

ニアミス直後の感情

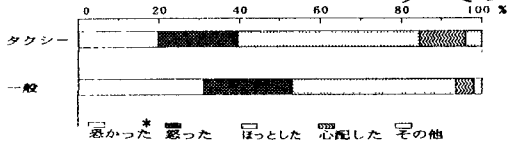


図-3

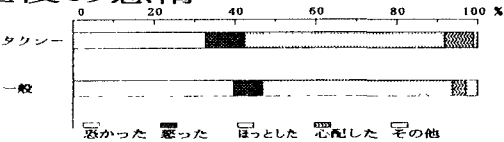


図-8

回避行動の適切さ

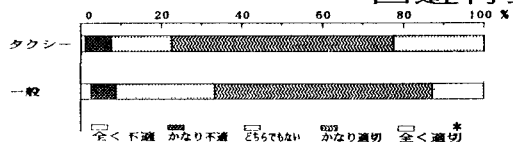


図-4

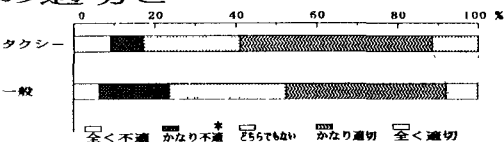


図-9

その後の運転に与えた影響

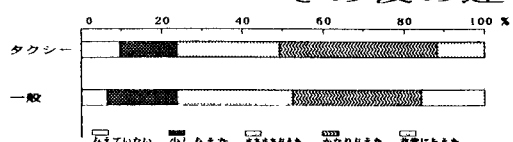


図-5

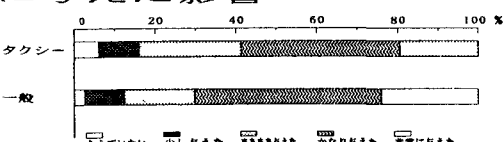


図-10

5、おわりに

自動車事故は、そのほとんどが人為的なミスにより起こされているといわれながら、その研究と対策は非常に立ち後れている。

本研究では、タクシードライバーと一般ドライバーに対してアンケート調査を行い、その結果タクシードライバーには能動的に運転を行なっている場独立的なドライバーが多いという結論を得た。

このような認識のもと、交通事故を減少させるうえで、社会的責任を自覚し、かつ能動的に運転を行なう優良なドライバーの育成が今まで以上に重要になってくると考えられる。

参考文献

- 1) D. シャイナー、交通心理学、P42、サイエンス社、昭和62年

場独立的：目標物をそれが埋め込まれている背景から独立して容易に探しだせる人を“場独立的” (field-independent)、反対に目標物を背景から取り出すのが困難な人を“場依存的” (field-dependent) という。